

平成 18 年 8 月 23 日

各 位

会 社 名 S B S ホールディングス株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 鎌 田 正 彦
 (コード番号：2384)
 問 い 合 せ 先 執行役員財務部長
 兼経理部長 山 下 泰 博
 電 話 番 号 03-3829-2222 (代表)

平成 18 年 12 月期中間業績予想の修正に関するお知らせ

平成18年12月期中間(平成18年1月1日～平成18年6月30日)の業績予想について、平成18年2月27日付にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 18 年 12 月期中間業績予想の修正 (平成 18 年 1 月 1 日～平成 18 年 6 月 30 日)

(1) 単体

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	830	180	150
今 回 修 正 (B)	970	360	230
増 減 額 (B) - (A)	140	180	80
増 減 率 (%)	16.8%	100.0%	53.3%
(ご参考)前中間期実績(平成17年12月期)	603	125	116

(2) 連結

(単位：百万円)

	売 上 高	経 常 利 益	中 間 純 利 益
前 回 予 想 (A)	60,000	2,000	1,250
今 回 修 正 (B)	63,000	2,000	960
増 減 額 (B) - (A)	3,000	0	△290
増 減 率 (%)	5.0%	0.0%	△23.2%
(ご参考)前中間期実績(平成17年12月期)	33,078	442	228

2. 修正理由

当社の主要なセグメントである物流業界は、依然として国内物流需要に回復の兆しが見られない中で、燃料費の上昇や、駐車違反の取締りの強化といったコストの追加負担を余儀なくされており、依然として厳しい状況が続いております。

このような環境の中、当社グループはグループシナジーの追求による積極的な営業展開に加え、買収した企業の業績寄与もあり、単体については子会社からの配当収入及び経営管理料等が増加したため、売上高、経常利益及び中間純利益とも、先の業績予想を大幅に上回る見込みとなりました

また、連結の当中間期の業績については、売上高は当初の予想を上回る見込みとなりました。

経常利益については当初予想どおりの見込みですが、当中間純利益につきましては、減損会計の適用及びグループ本社の移転に伴う費用等の計上により、当初予想を下回る見込みとなりました。

ただし、上期の利益圧迫要因はいずれも一時的なものであり、下期に予定している諸施策の実施により、通期の業績予想については達成可能と判断しておりますので、連結、単体ともに変更はありません。

(注) 上記の業績予想は、現時点での入手可能な情報に基づいて算出したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

以 上